

氏名	尾 崎 和 彦
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1181 号
学位授与の日付	昭和56年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	妊娠・分娩周辺における赤血球 Glutathione 及び関連酵素 の動態と溶血について
論文審査委員	教授 水原舜爾 教授 粟井通泰 教授 小田琢三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

妊婦血と臍帯血で、各々のGSH, GSH-Px, GSSG-R, G-6-PD, Met-Hb-reductase を測定し赤血球還元能を求め、また還元能と溶血の関係を知る目的で赤血球浸透圧をC.P.C で測定した。

その結果は妊娠中期に母体血でGSH-Px, GSH, GSSG-R の軽度低下傾向を認め、分娩時にはGSH-Px, GSH, GSSG-R, G-6-PD共に妊娠中期よりも高値であった。一方臍帯血ではGSH-Px は分娩時母体血より有意に低値を示し、Met-Hb-reductase も母体血より低値であったが有意差は認めなかった。他方GSH, GSSG-R, G-6-PD は臍帯血の方が母体血よりも有意に高値であった。

臍帯血赤血球抵抗は母体血のそれと比較し最小抵抗値は有意に低値を、また最大抵抗値は有意に高値を呈した。

以上より臍帯血は還元能を亢進させ、来るべき酸素被曝に対処するものと考えられるにもかかわらず易溶血性であるといわざるをえない。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は妊娠・分娩時周辺のGSH代謝を明らかにするため、母体血及び臍帯血のGSH含量, GSH関連酵素(GSH peroxidase, GSSG reductase, G-6-P dehydrogenase, Methemoglobin reductase)及び赤血球の溶血に対する抵抗の強弱をしらべ、産科学的に種々の意義ある知見を得たもので、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。